

東大EMP第23期プログラム 「知の統合演習」最終発表 概要

(2021年3月6日)

チーム・メンバー	テーマ	タイトル	概要
【チーム1】 阿部 暁 岩越 あや子 河村 允誉 岸野 利彦 藤原 健一 三浦 崇宏	健康的で活力のある 超高齢化社会経営	“The Circular Life”	<p>日本では、2021年4月より70歳までの就業機会確保が企業の努力義務となり、また長期間働くことを可能にするために現役層のリカレント教育に関する様々な取組が試みられている。しかし、実際は現役層が学ぶことも、高齢者が長年戦力として労働市場で活躍することも難しいのが現状である。なぜ、現役層は学ぶことが難しく、高齢者は活躍できないのか？</p> <p>我々は“the Curcular Life”をキーワードに主体的に人生の時間の使い方をデザインすると共に、「学び」「働き」「遊び」を循環させ、様々な経験をする中で、誰もが経験したことがない社会の変化に対しても前向きに適用することが可能な新たな社会システムを提示したい。</p>
【チーム2】 大堀 孝裕 小林 直人 高橋 俊行 馬場 大輔 山口 豊和	資源・エネルギー活用の 規律による環境保全	「環・共・創」で駆動する個人 の環境行動変容 ～環(めぐ)るを共に創る～	<p>人類が気候変動や環境破壊の危機に直面している中、パリ協定をはじめとした国際的な環境対策の枠組みの構築や、国や企業等での取組が進みつつある。</p> <p>一方、環境政策の実効性を担保するためには、社会を構成する個人一人一人の環境行動に後押しされた、社会全体で協調した取組が重要と考えられる。</p> <p>我々は、地球環境問題に対する個人の意識改革と行動変容を促すための枠組みを提案する。</p>
【チーム4】 浅野 哲平 江田 健二 櫻井 直人 佐々木 亜衣 橋倉 宏行 雛元 昌一郎	多様な宗教、文化、政治前提 の共通行動規範確立	“あわい”の対話	<p>情報の氾濫が1つの引き金となり分断や排外主義が多くの場面で問題とされている。さらに新型コロナの蔓延はその不安や不信を一層強めている。一方で、コロナ禍を経験している今だからこそ、対話を通じて相互の価値観を柔軟に変容させ共生の道を歩むことができるのではないかと私たちは考えた。</p> <p>発表では、私たち自身が日々の暮らしの中から対話を実践できる社会を実現するため、対話の概念を問い直して新しく定義した「あわいの対話」を提言する。</p>

東大EMP第23期プログラム 「知の統合演習」最終発表 概要

(2021年3月6日)

チーム・メンバー	テーマ	タイトル	概要
【チーム5A】 荒木 隆史 川上 貴裕 北島 洋平 佐藤 壮 潮崎 弘靖 寺門 義昭	先端科学・技術の効用前提での新世界観の形成	「だれか」って、だれだ？ ～everyone makes protagonist～	近年、科学技術の進展スピードは指数関数的な高まりを見せているが、社会がそのスピードに適応できず、適切な実装ができていない現状がある。これにより、科学技術の進展による利益を享受できないばかりか、技術開発力の低下も懸念される。我々は、科学技術の適切な社会実装を阻害している要因について、関係するプレイヤーごとに分析を行い、課題先進国ニッポンに必要な視点を提示する。
【チーム5B】 石丸 彰子 伊藤 陽介 大川 賢紀 杉本 征剛 仲澤 純 水池 健太郎	先端科学・技術の効用前提での新世界観の形成	地球環境を飲み込みつつある“世界の胃袋”に我々はどう向き合うべきか？	食料の生産から消費までを含むフードシステムは、世界人口の急増を支える原動力となってきた。一方で、そこには大きな環境負荷が潜んでおり、我々は将来にツケを回しながら、食料を消費・浪費している状況である。このままでは、そのツケが顕在化し、不可逆的な環境破壊がもたらされ、早晩、我々は十分な食料を得られなくなる上に、食料配分の格差も助長される。チーム5Bでは、先端科学・技術を活用して、フードシステムが地球環境にもたらす影響を食料の消費行動に組み込むことで、人類の行動変容につながる視座を提供する。